

SQL Server 2016 Developer with Service Pack 1 (x64) のインストール

最終更新: 2017 年 11 月 18 日

URL: <https://www.kunihikokaneko.com/dblab/toolchain/sqlserver2016.docx>
もしくは <https://www.kunihikokaneko.com/dblab/toolchain/sqlserver2016.pdf>

SQL Server 2016 は、リレーショナルデータベース管理システム。

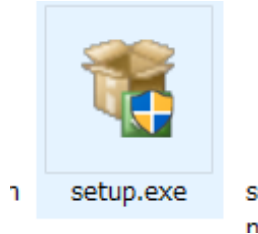
キーワード : SQL Server 2016, SQL Server Management Tools, ODBC データソース, Windows

目次

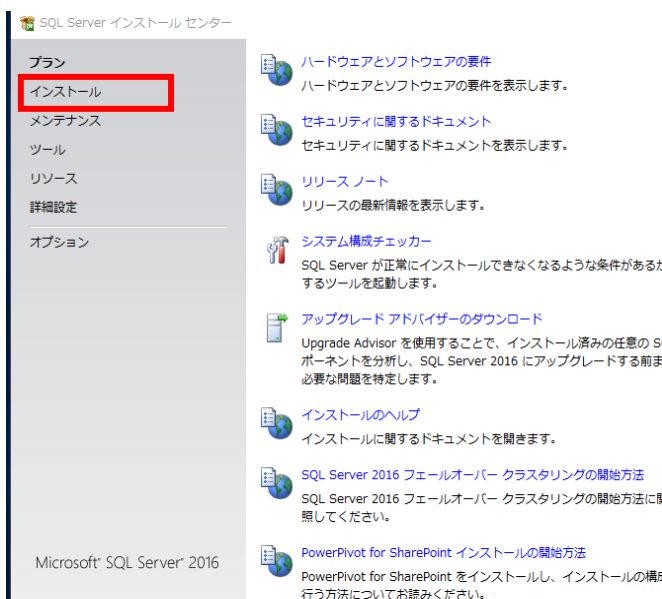
1. インストール手順	2
2. SQL Server Management Tools のインストール	7
3. ODBC データソースの作成	10
4. ODBC データソースに A5:SQL MK-2 を用いて接続	14

1. インストール手順

- ① setup.exe を実行



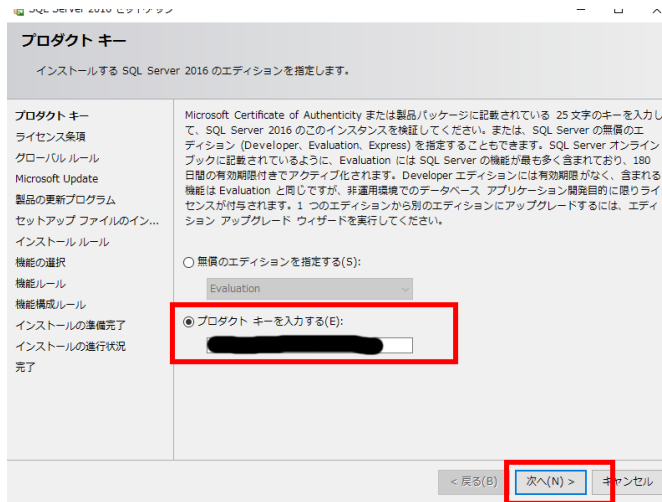
- ② SQL Server インストールセンターの画面で、「インストール」をクリック



- ③ 「SQL Server の新規スタンドアロン・インストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加」をクリック



④ プロダクトキーを入力し、「次へ」をクリック



⑤ ライセンス条項を確認し、「次へ」をクリック



⑥ Microsoft Update の画面では、

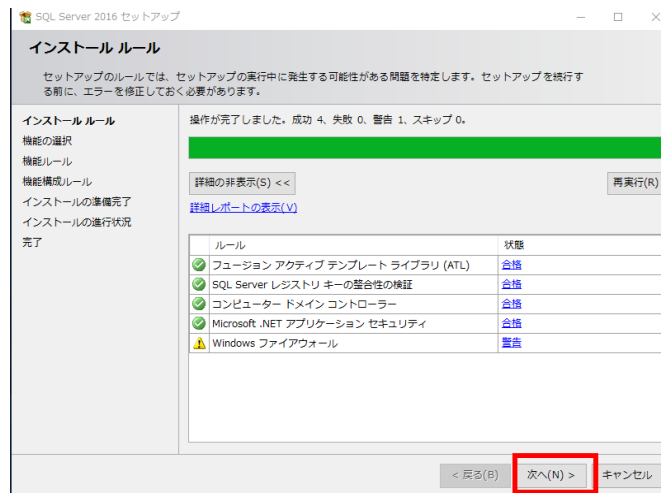
「Microsoft Update を利用して更新プログラムを確認する」をチェックして、「次へ」をクリックする。



⑦ 製品の更新プログラムの画面では、「次へ」をクリックする



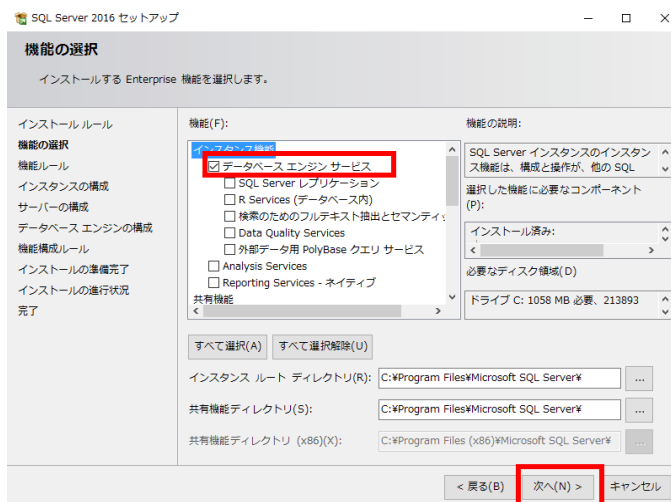
⑧ インストール・ルールの画面では、「次へ」をクリックする。



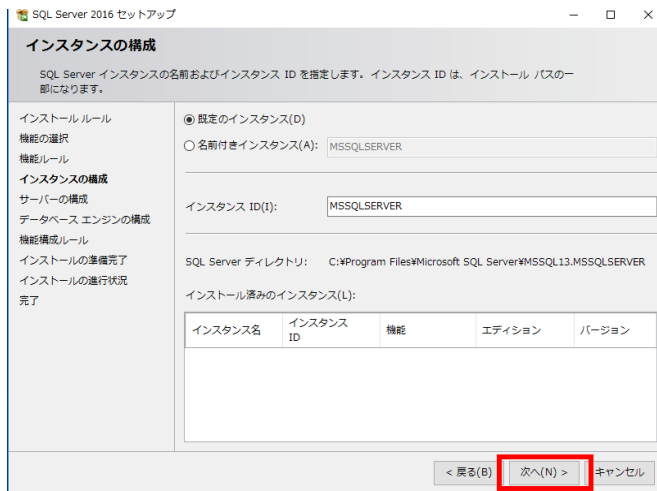
⑨ 機能の選択の画面では、

- ・「データベースエンジンサービス」をチェック
- ・その他、必要な機能をチェック

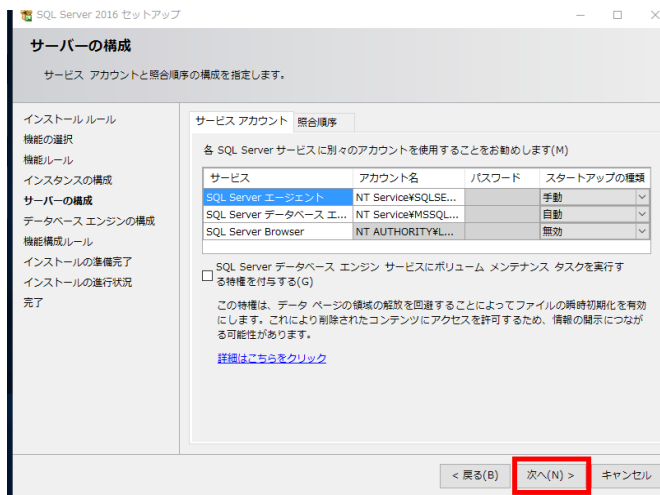
その後、「次へ」をクリック。



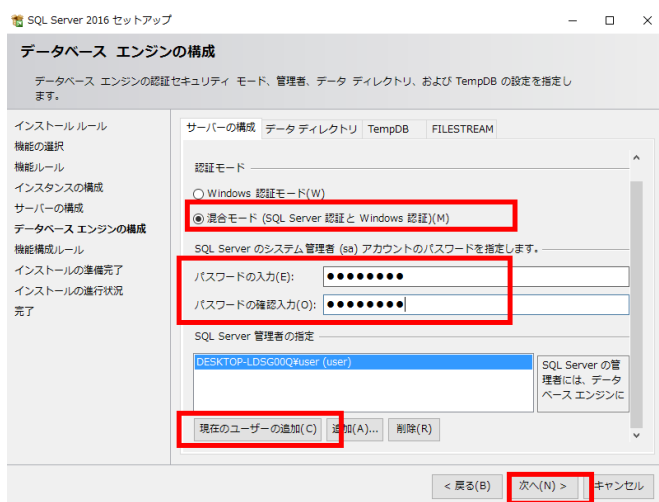
⑩ インスタンスの構成の画面では、「既定のインスタンス」のままでもよい。「次へ」をクリック。



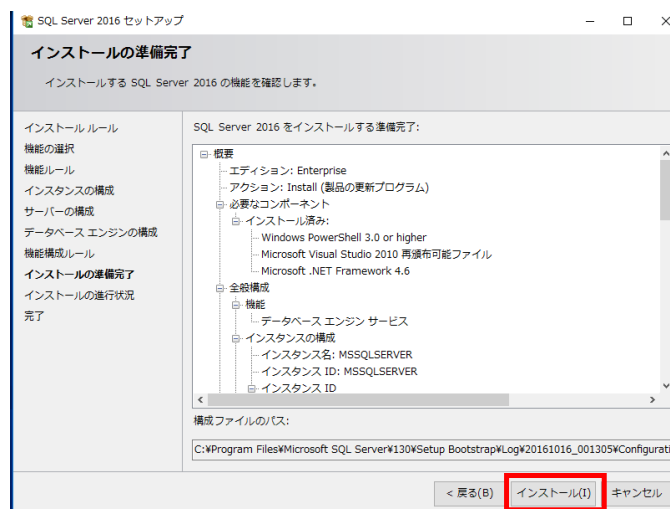
⑪ サーバーの構成の画面、既定（デフォルト）のままでもよい。「次へ」をクリック。



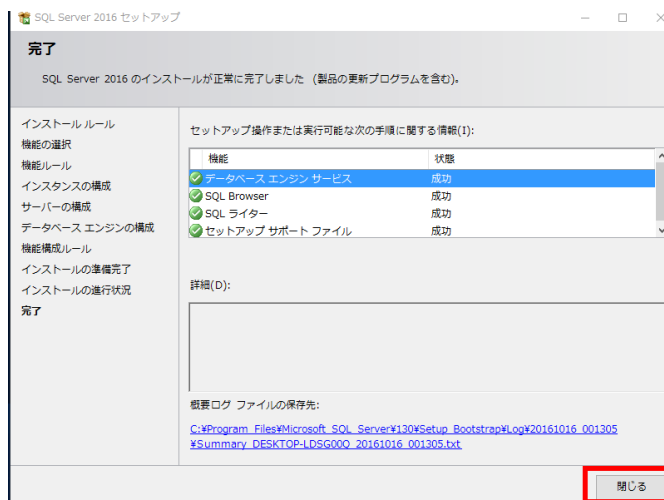
⑫ データベースエンジンの構成の画面では
「混合モード(SQL Server 認証と Windows 認証)」をチェック
「現在のユーザーの追加」をクリックし、パスワードを適切に設定して、「次へ」をクリック



⑬ インストールの準備完了の画面では、「インストール」をクリック。



⑭ 「閉じる」をクリック



⑮ インストールが終了すると SQL Server インストールセンターの画面に戻る

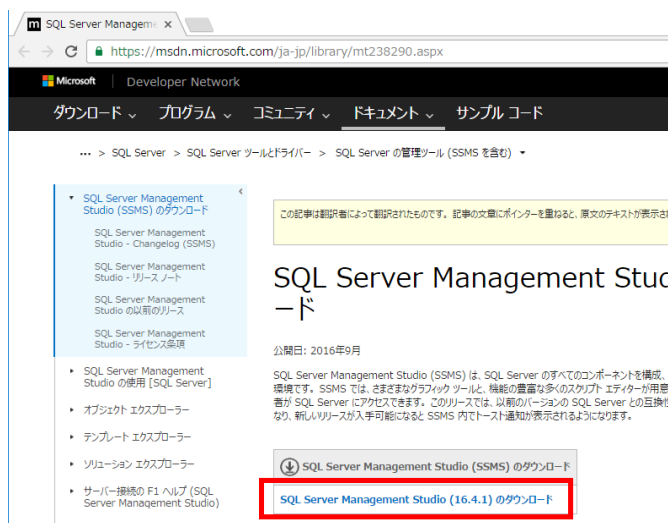


2. SQL Server Management Tools のインストール

- ① SQL Server インストールセンターの画面で、「SQL Server Management Tools のインストール」をクリック



- ② 「SQL Server Management Studio のダウンロード」をクリック



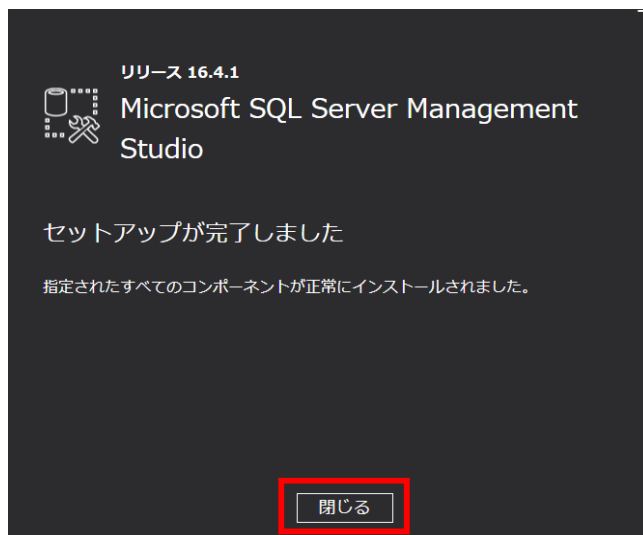
- ② ダウンロードした .exe ファイルを実行



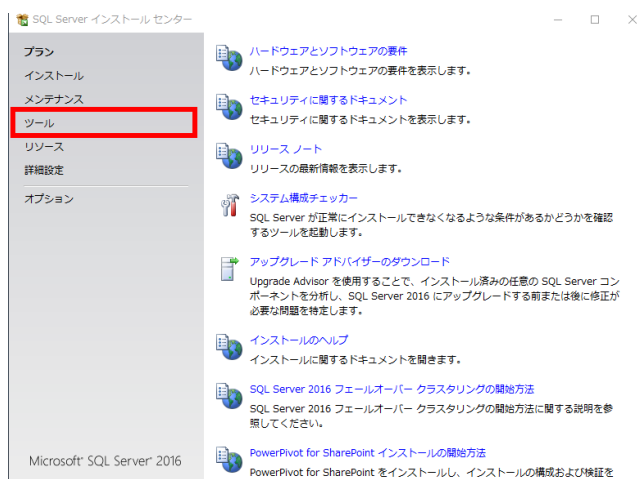
④ ようこそ画面では、「インストール」をクリック



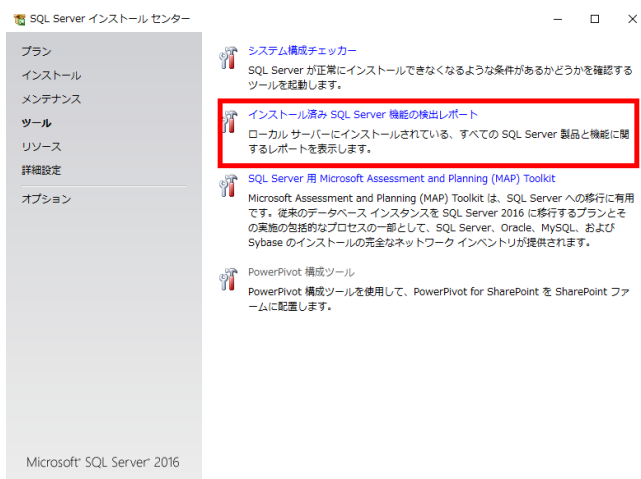
⑤ インストール終了の確認。「閉じる」をクリック。



⑥ 確認したいので、SQL Server インストールセンターの画面で、「ツール」をクリックする。



⑦ 「インストール済み SQL Server 機能の検出レポート」をクリック

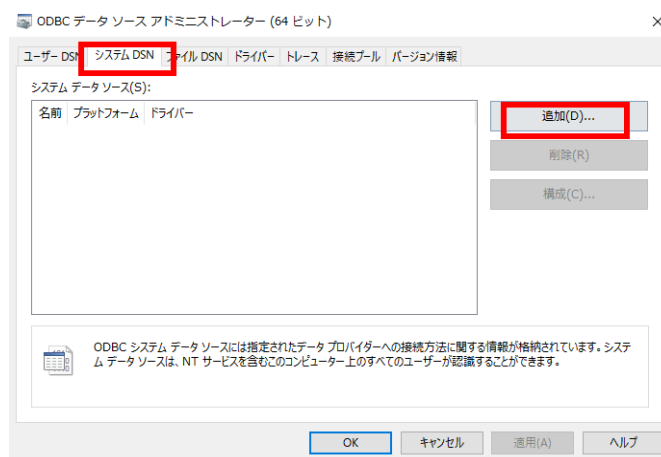


3. ODBC データソースの作成

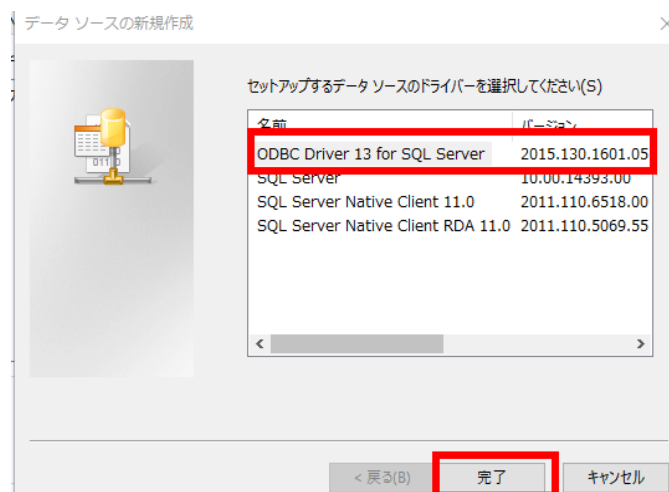
準備として次のことを決めておく

- 種類：システム DSN
 - データソースの名前：ここでは「SQL Server」と設定する
 - 接続する SQL Server：ここでは、ローカル接続
- ① Windows の管理ツールで「ODBC データソース(64 ビット)」を選ぶ

② 「システム DSN」を選び、「追加」をクリック。



③ 今回は「ODBC Driver 13 for SQL Server」を選び、「完了」をクリック



④ データソースの名前, 接続する SQL Server を設定する.

SQL Server 接続のための新規データソースを作成する

このウィザードでは、SQL Server に接続するために使用する ODBC データソースを作成します。

新しいデータソースの名前を入力してください。

名前(M): SQL Server

データソースについての説明を入力してください。

説明(D): SQL Server

接続する SQL Server を選択してください。

サーバー(S): DESKTOP-LDSG00Q

完了 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

⑤ 「統合 Windows 認証を使う」をチェックし、「次へ」をクリックする.

Microsoft SQL Server 用の DSN の設定

SQL Server が、ログイン ID の権限の確認を行う方法を指定します。

統合 Windows 認証を使う(W)

SPN (省略可能)(N):

ユーザーが入力する SQL Server 用のログイン ID とパスワードを使う(S)

ログイン ID(L): user

パスワード(P):

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

⑥ 「次へ」をクリックする.

SQL Server 接続のための新規データソースを作成する

既定のデータベースを以下に変更する(D):
(Default)

ミラー サーバー(M):

ミラー サーバーの SPN (省略可能)(P):

データベース ファイル名を添付する(H):

ANSI の引用符付き識別子を使用する(U)

ANSI の NULL、埋め込み文字、警告を使用する(A)

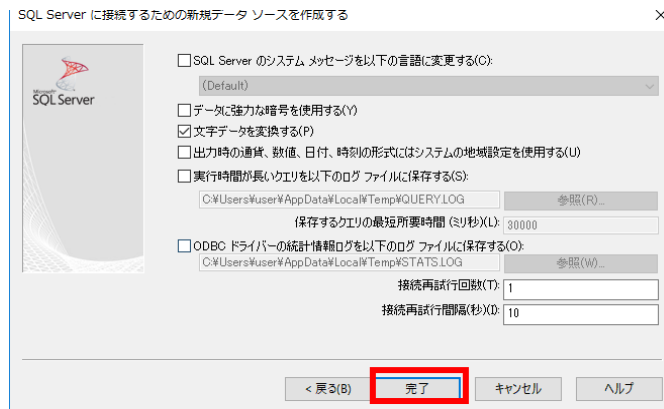
アプリケーションの目的ID:
READWRITE

マルチサブネット フェールオーバー(F)

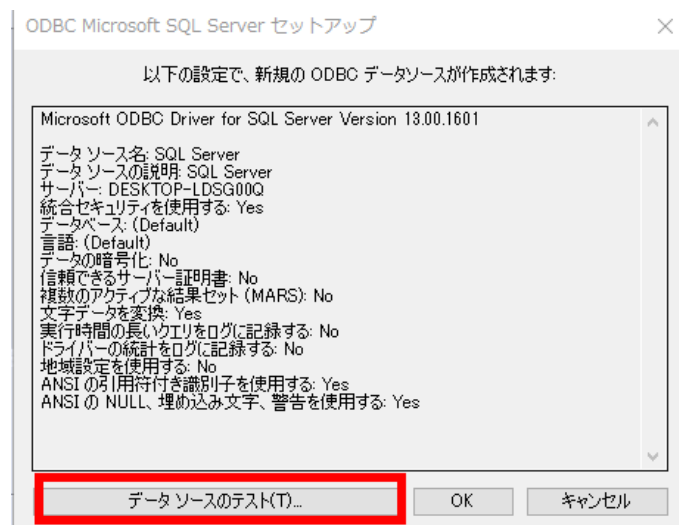
適応的なネットワーク IP ソリューション(T)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

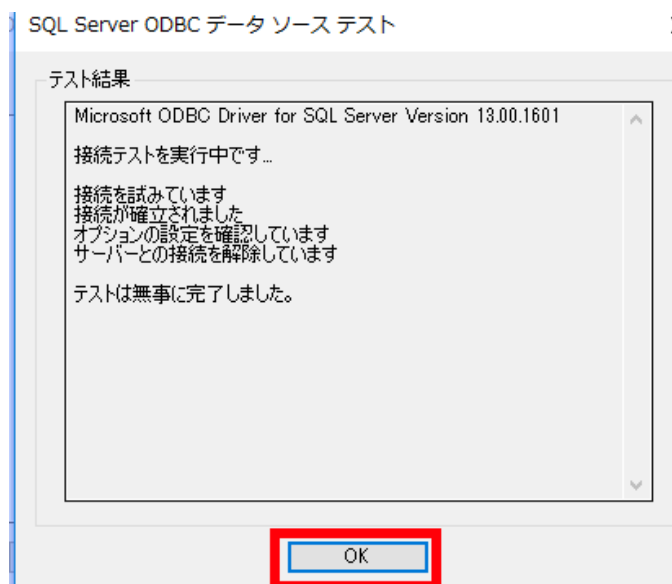
⑦ 「完了」をクリックする。



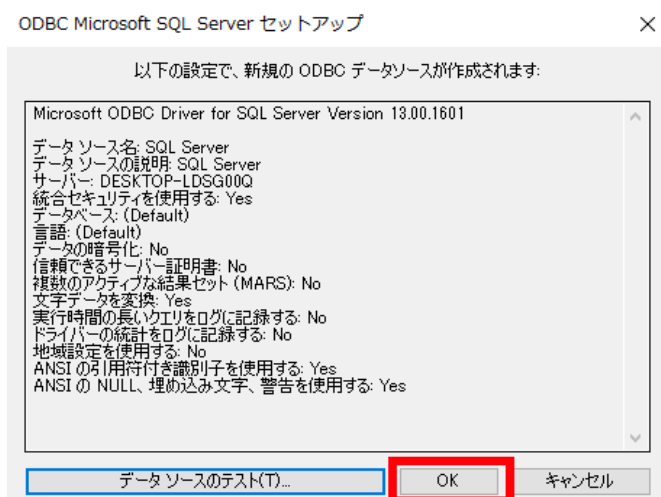
⑧ 「データソースのテスト」をクリックする。



⑨ データソースのテストの結果, 「テストは無事に終了しました」と表示されることを確認する。「OK」をクリックする。



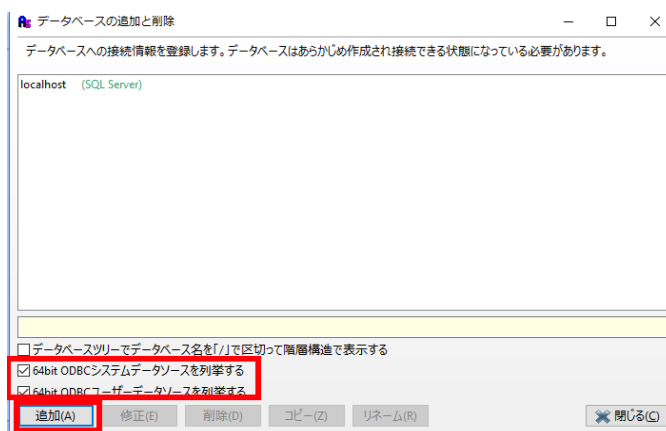
⑩ 新規の ODBC データソースを作成したいので、「OK」をクリックする



4. ODBC データソースに A5:SQL MK-2 を用いて接続

A5:SQL MK-2 は便利なツール。作者に感謝。

- ① A5:SQL Mk-2 を起動
- ② 2か所にチェックし、「追加」をクリック。
 - ・ 64ビット ODBC システムデータソースを列挙する
 - ・ 64ビット ODBC ユーザデータソースを列挙する



- ③ **ODBC での接続**を行ってみたいので、「Microsoft SQL Server と SQL Server Compact」は選ばずに「**ADO (OLE DB, ODBC)**」を選ぶ。



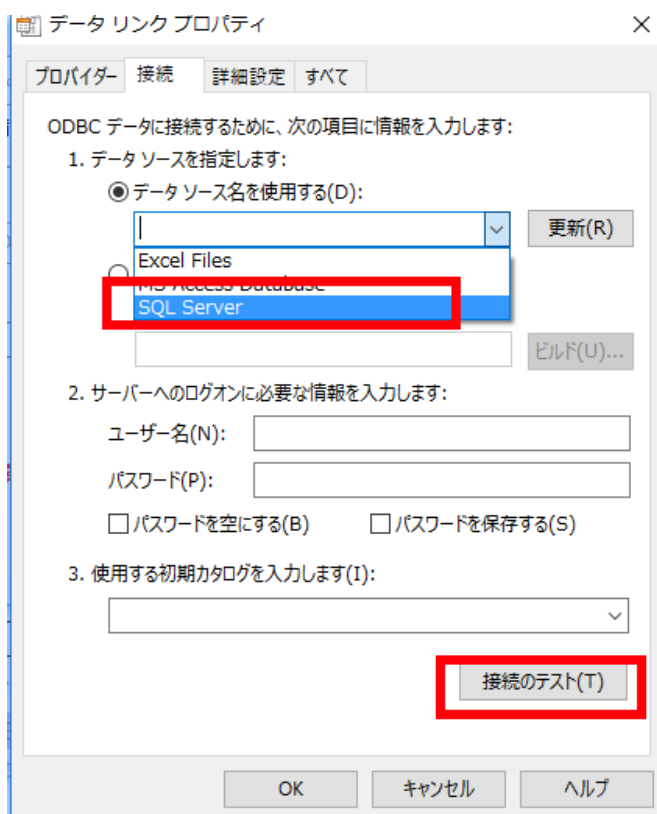
④ 接続文字列を設定したいので、接続文字列の「・・・」をクリック。



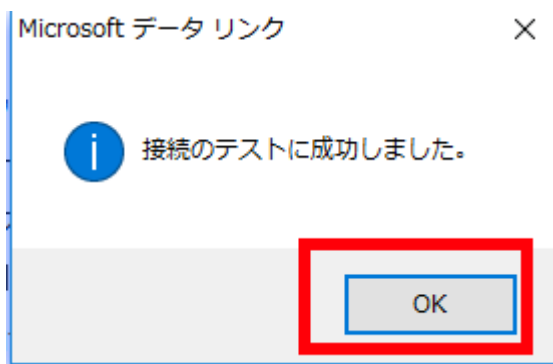
⑤ 「Microsoft OLE DB Provider for ODBC Drivers」をダブルクリック



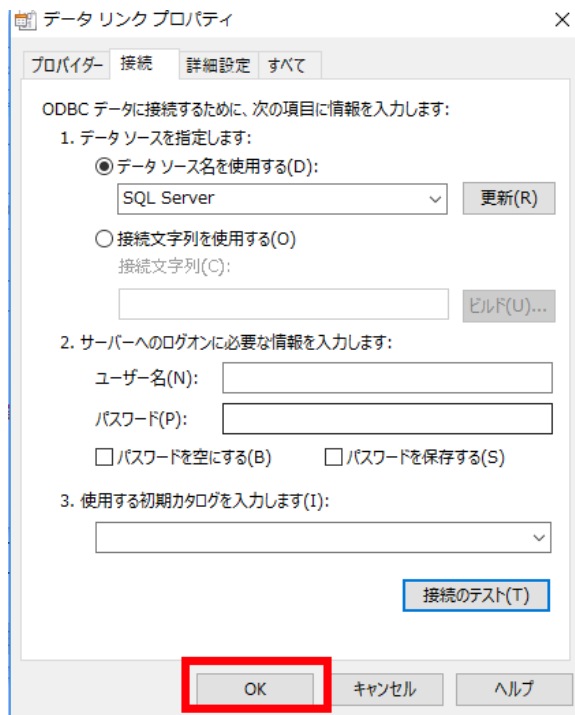
⑥ 接続したいデータソースを選び、「接続のテスト」をクリック。



⑦ 「接続のテストに成功しました。」を確認し「OK」をクリック。



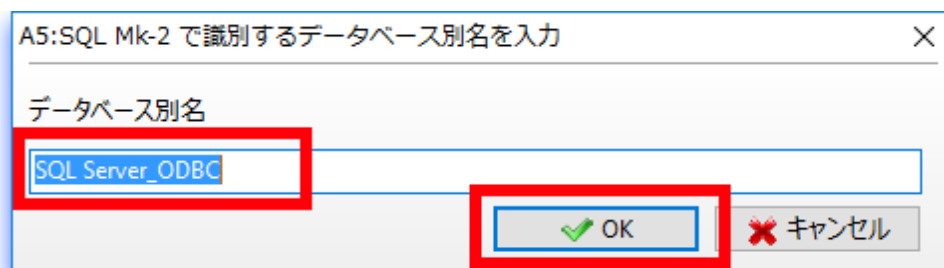
⑧ 「OK」をクリック。



⑨ 接続文字列を確認し、「OK」をクリック。



⑩ データベース別名を設定し、「OK」をクリック。



⑪ 「閉じる」をクリック。

